

2016年度活動報告

2016年6月14日に開催した年次総会以降の活動報告は、以下の通りである。

理事長 広渡清吾

1. 2016年度年次総会

- ・6月18日に名古屋大学東山キャンパスアジア法交流館ホールで開催した。総会では理事会提出の2015年度活動総括、決算案および2016年度活動方針・予算案を審議し、決定した。のちに懇親会を行った。総会出席者は44名であった。
- ・同日あわせて開催したドイツ留学体験報告・留学金説明会は、通例の留学説明会と異なり、体験報告を中心に行った。参加者は若手研究者を中心に約20名であった。
- ・総会報告版として「日本フンボルト協会ニューズレター」(Nr.4 2016年9月)を刊行した。

2. 協会運営のための諸会議について

- ・年次総会に際して、常務理事・支部長合同会議および理事会を開催し、会員総会に提出する2015年度活動報告、決算案および2016年度活動方針・予算案を審議し決定した。
- ・理事会においてすべての支部長を常務理事として加えることが決定され、総会に報告された。新たな常務理事会は年次総会以降、8月21日(東京・文化会館)、12月10日(京都・同志社大学)および2017年5月21日(東京・文化会館)に開催し、活動の具体化を図った。

3. ドイツ研究留学説明会の開催

- ・7月2日に東京・ドイツ文化会館で2016年度のドイツ研究留学説明会を開催した。全体説明会ののち、分野ごとに設置した6分科会でより詳細な説明と意見交換が行われた。若手研究者約100名が参加した。

4. 支部活動について

- ・7支部のうち中四国支部を除いて支部総会が開催され、支部の体制が確立している。中四国支部では会員の寄稿集を刊行して支部の連携を図っている。また、各支部ではDAAD友の会との協力での取り組みが進められている。
- ・大学別連絡責任者の整備は進行度に支部ごとのばらつきがあり、今後の取り組みが必要である。
- ・2016年度から支部長全員が常務理事となる体制をとったので、全体の運営において支部活動の位置づけがより明確になった。

5. ホームページの運営について

- ・ホームページ運用の一層の充実のために、ホームページ委員会の対面による審議が重要になっている。財政的措置を含めて検討中である。現在の委員会メンバーは次の通りである。

委員長・鏑田武志(関東支部)

委員・居城邦治(北海道支部)、笠井修(関東支部)、小林直人(中四国支部)、高橋義人(関西支部)、高山佳奈子(関西支部)、種村眞幸(中部支部)、西原博史(関東支部)

6. 賛助会員制度の活用について

・2015年度から、会則にいう **Humboldtianer** でないがドイツとの学術交流で役割を果たしている科学者に常務理事会として賛助会員としての入会をお願いする手紙をおくり、成果をあげ、引き続きこの制度の活用を進めた。

7. 協会の財政について

・協会の会計については「赤字予算を組まない」原則で運営しているので、会費収入の増大がなければ活動の拡大が図れない。会費納入率を **50%超**のできるだけ高い水準にひきあげることが引き続きの課題である。

・フンボルト財団から、総会開催の支援金に加えて、**2016年度**にはじめて、ドイツ研究留学説明会開催について支援金を申請し認められた。